

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

第4回業務推進全体会合

逐語録

(木村^浩) それでは、時間になりましたので、第4回業務推進全体会合を始めたいと思います。よろしくお願いします。

最初に、資料に番号を振っていきたいと思います。まず、議事次第があります。4-0になります。次は、第3回業務推進全体会合の議事録です。4-1を振ってください。

次から「エネルギーと原子力に関するアンケート」が4つ続きますが、2014年1月、第7回というものが4-2です。2013年1月、第6回が4-2'です。この2つは、首都圏住民対象の、今回と前回の調査票になります。前回の調査票は、参考までにおつけています。続いて、2014年1月、第8回と書いてあるものが4-3になります。2013年1月、第7回が4-3'になります。この2つは原子力学会員用です。

次に、第7回「エネルギーと原子力に関するアンケート」ご協力のお願いが4-4です。第8回のご協力のお願いが4-5になります。

次に、「フォーラムへのご協力のお願い」が4-6です。「フォーラム」とは？」という1枚の紙が4-7になります。フォーラム参加申込書の中で、Q3が見え消しになっていないほうが4-8です。こちらは首都圏住民用です。Q3が見え消しになっているほうが4-9になります。こちらは原子力学会員用です。最後に、A3の資料があると思いますけれども、こちらが4-10になります。ということで、今日は資料が10つ、補足資料が2つということですが、いかがでしょうか？

それでは、早速議論に入っていきたいと思います。

1月上旬に社会調査を実施します。また、フォーラムの応募も同時に行なうことになります。今日は、これらに関連する資料を確定することになります。社会調査ワーキンググループとフォーラム研究会で一通りのディスカッションをして、それぞれが確定したものを用意しています。これらについて、この場でまたご意見をいただきたいと思います。今日は、午後に社会調査ワーキンググループがあって、輿論科学協会さんにも来ていただいて、今年度の調査の確定をすることになっています。そういう段取りになっていますので、よろしくお願いします。

0. 議事録確認

(木村 浩) それでは、議事に従って進めたいと思います。

まずは議事録確認です。今回は、シンポジウムの後の動きについて、全体で確認をしました。また、社会調査票のたたき台を出してもらって、ディスカッションを行ないました。前回の議事録に関しましては、メールでお送りしていますので、詳細は省略したいと思います。

1. 社会調査に関する検討

(木村 浩) 次に、社会調査に関する検討ということで、土田先生からご紹介いただいて、ディスカッションに入っていただければと思います。よろしくお願いします。

(土田) はい。調査票本体と、協力のお願という資料がありますが、まずは本体のほうから進めていきたいと思います。

首都圏住民と原子力学会の会員に、基本的に同じ調査をするのですが、微妙に違うところもあります。資料 4-2 が首都圏住民用、4-3 が学会員用です。それから、4-2'が前回の首都圏住民用の調査票です。4-3'が、前回の学会員用の調査票です。

まず、首都圏住民の調査票を見ていきたいと思います。したがって、4-2 と、参考程度に 4-2'を見ながら議論を進めたいと思います。

1 ページ目は変わりありません。回答方法についての説明です。

2 ページ目は、昨年度とまったく変わりがありません。相対的に原子力がどれほどの関心を持たれているのかを見るのが Q1 です。それから、相対的に原子力がどれほどの不安を持たれているのかを見るのが Q2 になります。

次に、3 ページ目ですが、昨年度は原子力規制委員会が新設されたことを受けて、原子力規制委員会に期待すること、という質問を作りました。今年度は、前回の話し合いで決めたように、これはもういいだろうということで、削除しました。その代わりに、信頼についての項目を入れています。これは、昨年度の Q18 を基に、大幅に手を加えています。実は、昨年度よりも前のどこかの段階で、今回の Q3 に相当するような質問をしたことがあります。それに若干手を加えて作成した質問になります。

以下の人や組織に対して、どの程度信頼していますか、ということで、「信頼している」から「信頼していない」までの 5 段階の選択肢を用意しています。

対象がア) からソ) までありますけれども、一応読み上げます。ア) 家族。イ) 近所の人。ウ) 医者。エ) 政治家。オ) 官僚。カ) 原子力の専門家。キ) 市民団体。ク) 大企業。ケ) 裁判所。コ) 自衛隊。サ) 警察。シ) 学校の先生。ス) テレビ。セ) 新聞。ソ) イン

ターネット。

ということで、個人的に繋がりがあある人、行政、政治、それから、原子力の専門家がポンと入れてあって、組織、自衛隊、警察、あとは教育関係で学校の先生。あとはマスコミです。インターネットも広くマスコミの中に入れて、ということですけども。

まずは、Q3についてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか？

今手元に資料はありませんが、過去にやったことのある質問項目ですので、その年の結果と比較できるようになっています。

—— 「カ）原子力の専門家」だけが浮いているように見えます。

あとは、研究者一般のことは聞いていないですが、そことの比較は要らないですか？

（土田） 浮いているということに関しては、確かにその通りなのですが、原子力学会がやっている調査ということですので、それなりには納得してくれるのではないかと考えています。

それから、後半のご指摘、いわゆる科学者、専門家と言われる人を入れてもいいのではないかとありますが、木村先生、スペースから言うと、スクラップ&ビルドですね？

（木村 浩） そうなります。

（土田） 何かを消さないと入れられません。だから、何を消すかということとセットで議論する必要があります。

—— 「ア）家族」は要らないのでは。

（篠田） ア）は、相対的な基準になるので、できれば残しておきたいと思っています。

—— 「エ）政治家」は要らないのではないですか？ どうせ政治家は信用していないでしょう。

（土田） 確かに、政治家も、区議会議員と国会議員では話が違うとか、いろいろあるのですけれども。

—— 「ス）テレビ」と「セ）新聞」をまとめるのは駄目ですか？ 「マスコミ」とか。

（土田） うーん。悩ましいところですね。

(木村 浩) この質問は、結構欲張っているのですよね。

(土田) 欲張っています。「キ) 市民団体」は消せないし……。

—— 市民団体と一口にいても、幅が広いですよね。

(篠田) それは回答者のイメージです。市民団体といっても、確かにいろいろある。でも、アンケートではそれが何かは特定しません。

—— 「シ) 学校の先生」が入っているのは、どういう意味があるのですか？

(土田) 意外と、「学校の先生が言っていた」ということで覚えている人が多いものだから。

(木村 浩) 「一般的な研究者」だけはどうにか入れたいですね。

(土田) 入れたいですね。「ウ) 医者」を消しますか？

(木村 浩) 私は、「ケ) 裁判所」は要らないと思います。

(土田) ちょっと待ってください。今、「一般的な研究者」と言いましたが、そう書きま
すか？

(木村 浩) 「科学者・研究者」でいいと思います。

—— そして、それは「カ) 原子力の専門家」の近くに置かないと。

(木村 浩) そうです。

(土田) カッコで、原子力以外、としますか？

—— うーん。そうすると、原子力の専門家は一般的ではない、という感じがしてしま
いますが……。

—— 人によって、「科学者・研究者」の中に原子力を含めて考える人と、分けて考える人
がいる気がします。

—— そうです。だから、そこは明確にしたほうがいいのではないかと。「一般」というよりも、「原子力以外の」という文言のほうがいいのではないかという気はします。

(土田) でも、そう書くと、原子力を特別視しなさいと誘導している気がします。

(木村_浩) 本当は、「カ) 原子力の専門家」は、最後に持って行って、付け加えて聞きました、くらいのスタンスのほうがいいのかもしれませんが。

(土田) そのほうがいいかもしれない。確かに、カ) は浮いているのですよ。

(木村_浩) 質問文の中で、「原子力に関して」とは書いていないのですよね。一般的な状況における信頼を聞く質問なので。

—— 何か特定した分野の専門家にしましょうか? 「原子力の専門家」、「医療の専門家」とか。

(木村_浩) それをやると選択肢が多くなってしまいます。

—— この質問は、原子力のことを聞いているわけではないのですよね?

(土田) 一般的に聞いています。ただ、狙いとしては、「原子力の専門家」がどのくらい信頼されているかということ、他と比較して聞きたい。

—— だけど、例えば年金問題について原子力の専門家の意見を聞くかといったら、ノーですよ。質問文に「原子力」と書いていないのに、「原子力の専門家」が並んでいるのは、やはり不思議ですね。

(篠田) 浮いているというのはその通りなのです。あえて入れているのです。

—— 「原子力の専門家」のところに、「科学者・研究者」と置くのが筋だと思います。

(木村_浩) それが筋なのですが、あえて聞きたいということです。

(土田) 今までの議論を踏まえて、提案です。カ) に「科学者・研究者」を入れて、「ケ) 裁判所」を消して、その下の項目を繰り上げて行って、最後に付け足しみたいに「原子力

の専門家」を入れる、というのはいかがでしょうか？

—— 「インターネット」を消したほうがいいような……。何を消すかは、個人の趣味ですよね。

(土田) そうです。個人の趣味です。でも、「インターネット」は消せないと思いますよ。

—— 今は、インターネットは消せないですよ。かなり影響力があるから。

—— 今は、テレビとインターネットの境界が曖昧になっていると思います。テレビも LAN でつなげられるようになっていて、インターネットでもテレビのニュースが見られる。だから、「テレビ」と「インターネット」を一緒にしてもいいのではないかなと。

—— インターネットはソーシャルメディアと呼ばれますが、新聞やテレビはマスメディアと呼ばれますよね。分けているのですよ。

(土田) ええ。くっつけるとしたら、「新聞」と「テレビ」ですね。

(木村^浩) そのほうがまだ相性はいいと思います。

—— 最近のテレビの番組は、下にテロップでインターネットのコメントが出てくるようなものもあるから、線引きはとても難しいのだけど。

(篠田) 新聞とテレビを区別して評価したいのか、一緒くたの対象にして評価したいのかによって、違ってくるのです。

—— NHK は毎年世論調査をしているのですが、インターネットは、面白いことに「趣味・娯楽」の中に入っているのですよ。ある程度の趣味の方が使っているという発想なのです。

一方、テレビ・新聞は、「マスメディア」という分類にしているのですよ。

—— 今の流れとは別の話になりますが、この質問には 2 つの次元があると思います。

1 つは、一般的に、「大企業」や「裁判所」、「自衛隊」など、様々な組織の信頼に関する話。もう 1 つは、「家族」や「近所の人」など、その人が拠って立つ準拠集団の話。自分が規範とするものをどこに置いているのか、ということを知りたいのだろうなど。

その感じからすると、どちらにも含まれないのは「医者」かなと思います。医療の現場においては医者の信頼度は高いと思うのですが、規範にはなっていないのではない

かと思えます。

それから、「原子力の専門家」を一番下に置くというのは、ありだと思います。

「テレビ」「新聞」を一緒にする、しないはどちらでもいいと思います。

(篠田) 準拠集団という意味では、参考にした質問には「かかりつけの医者」という文
言がありました。そうすると準拠集団になるのですね。

—— いや、それは医療現場においては、ということですよ。でも、医療現場が、例え
ば原子力や世論や政治行政について、その人の準拠の規範になっているとは思えないので
す。昔の小さい村ではそういうことはありましたけど。

(土田) では、「医者」を外しますか？ 放射線や電磁波の場合は、医師免許を持っている
人の発言は結構効くのですよ。そういう特殊な例はあるのだけど。うーん。

(篠田) 個人的には、「裁判所」よりも「医者」のほうを外していただきたい。

(土田) では、「医者」を外しましょう。

—— 「自衛隊」と「警察」は、両方聞いたほうがいいですか？

(篠田) はい。全然違いますから。

(木村_浩) 今、一般的信頼が一番高いのは自衛隊です。

—— 権力のあるところは信頼が低いのです。自衛隊は、力はあるけど権力はないと思わ
れていると思います。

(土田) では、カ)を「科学者・研究者」にして、「原子力の専門家」が一番下にします。

(木村_浩) 質問文に、「以下の人や組織に対して」と書いてありますが、メディアとい
う単語を入れたほうがいいですか？

(土田) 入れなくてもいいと思います。テレビ会社、新聞会社と読んでくれると思いま
す。

では、Q4に移ります。これは社会学、社会心理学で「一般的信頼」と呼ばれている尺度
になります。定型化されたものです。国際比較できるような尺度になります。

読み上げますね。ア)人は基本的に正直である。イ)人は信頼できる。ウ)人は基本的に善良で親切である。エ)人は他人を信頼している。オ)人と付き合うときは用心するに越したことはない。

個人特性として、その人がどのくらい他人を信用する人なのか、信頼する人なのかということを見るというものです。Q3と比較して、全部信用していなくて値が低いのか、信用しているのに低いのか、というような分析もできます。ここはよろしいですか？

では、4ページ目にいきます。4ページから5ページにかけて、原子力発電に関する質問を入れています。

Q5からQ9は、昨年度と同じです。これは第1回からずっと続けている質問になります。Q5が、原子力発電に対する関心。Q6が、利用していくべきか、やめるべきか。Q7が、有用かどうか。Q8が、安心—不安です。Q9が、原子力がなくて経済的に発展できるか。他の質問と重複しているものもあるのですが、Q5からQ9に関しては、定点測定という形で、よほどのことが無い限り、変えません。

5ページ目のQ10からQ15は、昨年度の7ページの内容を少し変えました。今までは、「20年後はどうなっていると思いますか」と聞いていたのですが、この聞き方だと、希望としてそうなってほしいと思っているのか、客観的に予想としてそうなるのだろうかと思っているのか、区別がつかないということで、今年度は2つに分けました。

Q10は、「あなたの希望としては、どの発電の発電量が最も多くなって欲しいですか」という質問です。選択肢は、水力、火力、原子力、新エネルギー、その他です。

Q11は、「あなたの予想としては、どの発電の発電量が最も多くなっていると思いますか」という質問です。同じ選択肢にしてあります。

選択肢は例年と変えていません。よろしいでしょうか？

Q12は、「希望としては、原子力発電が全発電量の何割くらいになって欲しいか」。選択肢は、昨年度と同じです。「1%以下」から「5割以上」まで。

Q13は、「予想としては、原子力発電が全発電量の何割くらいになっていると思うか」。

Q14、15は、原子力を新エネルギーに代えて、同じことを聞いています。

いかがでしょうか？

—— こういう質問は、他にあまり例がないのではないのでしょうか。興味深いです。

(篠田) 形式を変えてしまったので、前年との比較は厳しくなるのですが。まあ、今回はあえて。

(土田) あえて。よろしいですか。

では、Q16に移ります。昨年度の原子力発電の利用に係わる意見(Q10)や福島事故に関する意見(Q11)を統合したものになります。昨年度までは、福島事故について特別項目

を起こしていましたが、今年度はそれはやめました。そして、福島項目ではないという形で入れています。読み上げます。

- ア) 使用済み燃料を再処理することによって、核兵器に使用される可能性のあるプルトニウムを抽出すべきでない。
- イ) 原子力発電がなくても、電力は十分供給できる。
- ウ) 原子力発電は、発電の際に二酸化炭素 (CO₂) を出さないなので、地球温暖化の防止に貢献できる。
- エ) 日本で原子力発電による現在の発電量を考えると、近い将来に原子力発電に代わる発電方法はない。
- オ) 原子力発電の技術開発より、新しいエネルギーの開発と育成に重点をおくべきだ。
- カ) 運転年数が長い原子力発電所が増えているので、安全性は低下している。
- キ) 原子力に携わる人たちの安全確保に対する意識や努力を信頼している。
- ク) 使用済み燃料を再処理することによって、ウラン資源を半永久的に発電に利用することができる。
- ケ) 高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない。
- コ) 高レベル放射性廃棄物の最終処分地は、当分の間決定できない。
- サ) わが国のような地震国に原子力発電所は危険である。
- シ) 原子力発電は 20 年後の社会や人びとの生活にとって有用である。

ここまでの、旧 Q10 の内容になります。

ここからは、(前回の) 福島項目のものを、福島項目と言わずに入れています。

- ス) 原子力発電所はひとつも再稼働すべきでない。
- セ) 原子力発電の立地地域において、住民が避難しなければならないような事態も十分に考えなければならない。
- ソ) 今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う。
- タ) 原子力発電は、人類の未来を危険にさらすものだ。
- チ) 原子力発電が地球温暖化対策に有効なエネルギー源であることに変わりはない。
- ツ) 原子力発電のリスクは一部の立地地域に偏っており、社会的な公正さを欠く。
- テ) 日本としては今後も原子力発電を推進していかなければならない。
- ト) 私は、個人的には原子力発電が嫌いである。
- ナ) 福島第一原子力発電所で作業員が被ばくしていることは深刻な問題だ。
- ニ) 福島第一原子力発電所で作業員の被ばくが適切に管理されていない。
- ヌ) 福島県の除染作業は順調に行われている。
- ネ) 福島第一原子力発電所の廃炉作業が計画どおりに進むとは思えない。
- ノ) 福島第一原子力発電所から発生している汚染水はコントロールできていないと思う。

ニ) は、昨年度は福島事故の項目だったので、単に「作業員の被ばくが適切に管理され

ていない」としていたのですが、今回は福島項目にしていませので、「福島第一原子力発電所で」という形に変えてあります。ネ)、ノ)が新しい項目で、廃炉項目と汚染水項目です。

ということで、いかがでしょうか？

—— 最後の質問は誘導質問で、私はあまり賛成できないですね。面白半分で否定的な答えに丸をつける人が多いと思います。

(篠田) アンケートですから、面白半分でつけてはいけない、ということではないのです。面白半分でつけるのも、アンケートではあります。

(土田) ヌ)は肯定にしてあるのですね。だから、スペースに余裕があれば、汚染水に関しても肯定と否定で2つ質問を置きたいところなのですけれども。

—— この質問に意味があるとは思えないのですが。

—— 「コントロールされている」の受け取り方が、専門家と一般の人との間で非常に広いギャップがあるのです。少しでも漏れていればコントロールできていないと思う人もいるだろうし。専門家、例えば土木工学をよく知っている人だったら、少く漏れたって、全体としては間違いなくコントロールされていると言いますし。

—— 「福島第一原子力発電所から発生している汚染水で海に放射能が漏れ出していると思う」とか、そういう質問なら、意味があるかもしれない。

—— 漏れ出しているのですよ。影響が出る程度漏れているかどうか、ということです。

(土田) 調査技法的に言うと、ヌ)を肯定側にしているので、汚染水も肯定側にしてみようと、かえって答えるほうは誘導されているような印象を持ってしまう。

—— ヌ)はオフサイトのことを言っていて、ノ)はオンサイトのことを言っているわけでしょう。

(土田) そうなのですけれども、おそらく、一般の人は、その違いすら考えないで答えると思います。

「うまくいっている、というところに丸をつけてもらいたがっているのかな？」というような印象を持たれるのはまずいので、何か工夫がいると思います。

(木村^浩) これは、「コントロール」の話ではなくて、「汚染水の影響が怖い」とか、そういう話に変えたほうがいいかなと。

—— 言葉を変えるのだったら賛成です。

(土田) では、そうしましょうか。「福島第一原子力発電所から発生している汚染水が不安だ」。

—— 「汚染水が不安」と言うと、汚染水が出ていなくても不安かもしれないですね。

(木村^浩) なら、影響にしましょうか。「汚染水の影響が不安だ」。

—— おそらく、不安に思っていない人は少数で、汚染水に対するセンシビティは高いものと思われます。関係者はその点を認識しなければいけない。そういう質問文なら、意味があると思いますね。

(木村^浩) では、「福島第一原子力発電所から発生している汚染水の影響が不安である」に変更します。

(土田) 他はよろしいですか。

では、8 ページ目に移ります。Q17 は、放射能や放射線についての質問です。昨年度も聞いていたものですが、若干変えているところもあります。

- ア) 自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ。
- イ) 子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい。
- ウ) 国で定めた安全基準は、これで果たして十分に安全なのかが不安だ。
- エ) 国で定めた安全基準が、実際に守られているのかが不安だ。
- オ) 放射能や放射線の状況について、国や専門家に大丈夫だと言ってほしい。
- カ) 現状における自分のまわりの放射能や放射線の影響ならば、受け入れられる。
- キ) 福島第一原子力発電所事故で立ち入りが制限された区域は、もうすぐ人が住めるようになると思う。
- ク) は新しい項目です。

—— 住めないところはやはり住めないと思いますから、そこに着目している人はそう答えるでしょうし。もうすぐ帰れそうなところに重点を置いて見ている人や、その近くに住んでいた人は住めると言うでしょうし。どんな人でも問いに対して対象が分かれな

いような質問のほうがいいのではないかと思います。

(土田) そうしたら、「立ち入りが制限された区域は全て」と入れますか？

(木村^浩) 「全て」と入れると、住めるようになると思う人はほとんどいなくなると思います。

(篠田) アンケートはイメージを問うもので、イメージを問うには、ある程度漠然とした問いのほうがいいのです。

—— 自分だったらどこにつけるかなと考えてみたのですが、住めるようになる場所もあると思っているけど、全部ではないから、どこにつけたらいいのか悩みます。

(篠田) 「強くあてはまる」と「あてはまる」があるので、強く、弱くで判断していただくという形です。

—— たぶん、「どちらともいえない」になってしまうと思います。

(土田) 学会員にも同じ質問をするので、単にイメージを聞くだけだと、少し厳しいかもしれません。

(木村^浩) まず、Q17 全体を見て、この辺りは後でもう 1 回議論することにしませんか？

(土田) そうですね。では、キ) はもう一度戻るということで、とりあえず Q17 を一通り読み上げます。ク) が、

—— すみません、1 つだけ。「もうすぐ人が住めるようになると思う」ではなくて、「住めるようになればよいと思う」というのはいかがですか？

—— 皆そう思うと思いますよ。

(木村^浩) あの、1 回全体を通してからでお願いします。

(土田) 1 回通して、全体を見てからいきます。

ク) 放射能で汚染された土地の除染は、ほんとうは技術的に不可能なのだと思う。

ケ) 店で販売されている福島県産の米や魚などの食品は安全だと思う。

コ) 農地や住宅地の除染作業によって出たものを、自分の地域で受け入れてもかまわない。

サ) 放射線や放射能は恐ろしいと思う。これは新規項目です。

シ) 放射能や放射線について、自ら勉強しなければならないと感じる。

ス) 放射能や放射線の状況のことはよくわからない。

(木村 浩) キ) とサ) が新規です。

—— サ) を入れた意図は？ 非常にいい質問だと思うのですけれども。

(土田) 一番単純な形で不安や恐ろしさを聞いてみよう、ということですね。

—— 恐ろしいと思わない人はいないような気がするのですけれども。

(土田) いや、専門家には結構いると思います。

—— 専門家ほど怖いと思ってもらわないと。

—— 一般の方は、相当たくさんの方が恐ろしいと思っていると思うのですが、実際にどのくらいの方がそう思っているのかというのは興味があります。専門家に聞いたら全然逆のデータが出てくるので、これは面白いと思います。

(土田) 私としては、確かめられるかどうか分からないのですけれども、逆に恐ろしくないと無理やり思い込むことで、気持ちをこらえている人もいるかもしれないなど。

—— 先ほど議論になったキ) ですけれども、今、どのように区分されているかという、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の3つに分かれています。

避難指示解除準備区域は、解除の準備区域なのだから、早く帰れるだろうと誰しもが思うでしょう。それから、帰還困難区域が近い将来帰れるようになると思っている人は、おそらく少ないと思います。ですから、聞いてみたいのは、真ん中の居住制限区域です。文章は思いつかないけれども、その3つがあるということを説明した上で、「居住制限区域はもうすぐ人が住めるようになると思う」と聞くのはどうでしょうか。

—— そうしたら、「福島第一原子力発電所事故で居住が制限された区域は、もうすぐ人が住めるようになると思う」でしょうか。

(土田) 「立ち入り」ではなく、「居住」にすることですね。そうでしょうか？

(木村^浩) 「居住が制限された」ですか？ 「されている」ですか？

(土田) 「されている」ですね。

—— 「もうすぐ」でいいのですか？

—— 確かに、「もうすぐ」も、人によって違いますよね。10年が「もうすぐ」と思っている人もいるかもしれない。

(土田) ただ、調査はざくっと聞いたほうが良い結果が出るのです。10年とか、1年と書くと、かえって変なことになってしまう。

—— 私は、「もうすぐ」より「将来」のほうが良いと思います。

(土田) いや、100年後も「将来」ですから……。

(篠田) 「もうすぐ」を省くという手はあります。でも、「もうすぐ」は入れたいですね。

(土田) ええ。「もうすぐ」は入れたい。100年、200年後に住めるといっても仕方がないので。

—— 「将来」というと、とても遠い感じがします。かといって、「もうすぐ」がないと、1000年後、1万年後は人が住めるようになるだろうと思う人もいるでしょうし。「もうすぐ」が入っていれば、自分なりの「もうすぐ」を考えて、どこかに丸をつけるのではないかなと。

—— 要するに、2年以上仮設住宅にいる人たちをどうするか、というのが念頭にあるわけですね？

—— でも、この調査は首都圏でやっていますから。

—— 首都圏でも。

—— おそらく、普通の人はそういうことは考えないで、ただ自分の感覚で答えると思い

ますけれども。

—— 首都圏の人たちには、避難している人たちのことは念頭にないのですか？

—— いや、避難している人がいることは分かっているけれども、その人たちが住めるようになる、とまでは考えないで答える気がします。そのくらい意識が薄れていると思います。

—— 自分はもう事故の前と変わらぬ生活に完全に戻っていますから。

—— その辺がくっきり出るような聞き方はできないでしょうか。

(土田) どうでしょうか。原子力学会の調査が、そういう政策みたいのところまで踏み込むかどうか。

(木村^浩) 私が気になるのは、「居住が制限されている区域」という言葉に「居住制限区域」のイメージがあるかどうかですね。そろそろ帰還するという話も出てきつつある。そちらではなくて、その先の話だ、というイメージが、この言葉で出てきますか？

—— こないです。

(木村^浩) こないですよ。これから戻っていく地域、と取られるような気がするのです。

(土田) 個人的には、ややこしい話になってしまうのならば、もっと単純に、除染項目に入れてしまってもいいのかな、という気がします。除染がうまくいっているかどうかを聞く変数にしてしまう。

—— キ) は聞く必要があるのですか？ うまく除染が進めばすぐ住めるようになるし、うまくいかなければできない。それだけの話ですよ。なんのために聞いているのか、私にはよく分かりません。

(土田) そうですね。削除しますか？

(木村^浩) 元々は、帰還のことを聞きたかったのです。住める住めないの議論ではなくて、住めるような環境になったとして、帰還する人がいるかどうかを聞きたい。最初の意図はそちらだった気がします。

—— 福島の人に聞いたら別だけど、首都圏の人に聞くから、私はこれくらい曖昧でいいと思うのだけど。

(木村 浩) はい。そうなのです。「帰還すると思いますか」みたいなことを首都圏の人に聞くのは、失礼だろうということになって、いろいろ紆余曲折があって、こういう文章に落ち着いたと。そういう意味では、聞きたいことは聞けていないのです。

(土田) やめますか？

これは思い付きで言っているのですけれども、「住む」というのはやはり福島の人の問題なのです。首都圏だったら、「旅行に行きますか」という質問になるのかなと思うのです。

(木村 浩) 難しいですね。

帰還の話になってくると、前のページ (Q16) に入れたほうがいいたろうし。

(土田) そうですね。キ) はカットしましょう。

—— 避難している人に対してだったら、1 ページくらい聞きたい内容なのですけどね。

聞いたところによると、避難している人は、帰りたくないという人のほうが多いそうです。仮設住宅でコミュニティができています。その人たちとこれからも一緒に暮らしたい、という比率のほうが高いのだそうです。

(土田) では、9 ページ目、Q18 に移ります。これは昨年度とまったく同じです。念のため読み上げます。

ア) 私は、原子力に携わっている人たちの価値観や考え方は、一般の人たちとずれていると思う。

イ) 私は、原子力に携わっている人たちに感謝をしている。

ウ) 私は、原子力に携わっている人たちではなく、組織に問題があるのだと思う。

エ) 私は、原子力に携わっている人たちは権力志向だと思う。

オ) 私は、原子力に携わっている人たちは大変な仕事をしており、苦勞をしていると思う。

カ) 私は、原子力に携わっている人たちは大企業に所属していて、恵まれていると思う。

キ) 私は、原子力に携わっている人たちは自由に意見が述べられないのだと思う。

ク) 私は、原子力のことは専門家でなければわからないと思っている。

ケ) 私は、原子力に携わっている人たちは自分たちだけ利益を得ていると思う。

- コ) 私は、原子力に携わっている人たちに好感を持っている。
- サ) 私は、そもそも原子力は倫理的に問題があると思う。
- シ) 私は、原子力に携わっている人たちや組織に特に何の印象も持っていない。
去年とまったく変わっていません。今年も聞いてみるということです。

次に 10 ページ目です。Q19 は、数年前にあった質問に手を加えて作りました。地層処分に関しては、知識がない人が多いと思われるので、知識を与えて聞こうということで、枠内に説明文があります。一応読みます。

原子力発電所で使い終えたウラン燃料を「使用済み燃料」と言います。この使用済み燃料からウランとプルトニウムを取り出して、残りを「高レベル放射性廃棄物」として処分します。取り出したウランとプルトニウムは、原子力発電の燃料としてリサイクルすることができます。

日本では、高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋める方法を選択しました。この処分方法を「地層処分」と言います。地層処分はまだ実施されていません。

また、現在、ウランとプルトニウムを取り出すことなく、使用済み燃料をそのまま処分する方法の検討も始まりました。なお、高レベル放射性廃棄物と、福島を除染によって発生した放射性廃棄物とは別物です。

下から 3 行分が、今回新しく付け加えられた文章です。それ以外は、以前使った文章です。

—— 下から 2 行目に「福島を除染によって発生した放射性廃棄物」とありますが、これは「放射性廃棄物」とは言っていないと思います。原子力施設から出る廃棄物のことを放射性廃棄物と定義していて、除染のほうは放射性廃棄物という定義をしていないと思います。確認したほうがいいです。

—— 「除染除去物」です。

(土田) では、役所が規定している通りの文言でいきましょうか。

(篠田) でも、ここは、高レベル放射性廃棄物と福島の廃棄物をごっちゃにしないための一言ですから、除染除去物にも放射能があるということを明示しないとイケないのです。

—— 「放射性廃棄物」と固有名詞のように書かないで、「放射性的廃棄物」とか、「汚染した廃棄物」にすればいいと思います。

—— 「放射性物質を含む」とか。

—— 「放射性物質」と書くと、重く受け取る人もいます。

(篠田) 「放射性の除染除去物」という言葉は駄目ですか？

—— 強いて言うならば、「ごく低いレベルの放射性廃棄物を含む除染除去物」です。

(篠田) 「ごく低い」を入れると、誘導っぽくなってしまいますが。

—— いや、「放射性廃棄物」という言葉がすでに誘導しているのですよ。いかにも濃いつい感じ。除染除去物のほうは、ごく低レベルですよ。

—— 「放射性」を取って、ただ「廃棄物」では駄目ですか？ 「除染によって発生した」と書いてあるわけだから。

—— それが一番いいかもしれない。

(土田) 「除染によって発生した廃棄物とは別物です」。単純にそうでしょうか。

—— すみません、勉強不足で申し訳ないのですが、「ウランとプルトニウムを取り出すことなく、使用済み燃料をそのまま処分する方法の検討」は、国で始まったのですか？

—— そうです。見直しの委員会で、直接処分を検討する、という項目が入りました。

—— ウランとプルトニウムを取り出して、それを原発で使うということも政府は言っていて。(この文を読んで) それをしないというイメージを私は持ったものですから……。

—— 3つ目の段落は、その上と違って、再利用をしないのです。リサイクルをしないで、そのまま燃料を深く埋めてしまおうという方法で、アメリカやフィンランドやスウェーデンは皆その方法を採用しています。

日本は、そういうこともオプションのひとつに入れて検討していこう、ということを決めただけで、まだ研究はまったく進んでいません。

—— では、同時にそれもします、ということにはなっていないくて、

—— そういう方法を採用するということを決めたのではなくて、それも選択肢のひとつにしなければいけないから、そういう研究もきちんとやっていきたいと思いますということです。

—— 上の5行は丁寧に説明しているのに、最後の段落は、「そのまま処分する方法」としか書いていなくて、何のことかよく分からないと思うのです。知識を与えている割には、上と下の差が大きいな、と思いました。

—— そうですね。直接処分も地下深くに埋めるので、上で丁寧に説明しているのに対応して、地下深くに埋めるということを説明したほうが良いと思います。

(木村 浩) 直接処分は、地下深くに埋めるというところまで検討は進んでいるのですか？

—— アメリカもフィンランドもスウェーデンも地層処分なので。これから検討するのだけど、それ以外の選択肢はありえないでしょうね。

(木村 浩) ええ。基本的にありえないのだけど、まだ確定はしていないのではないかと。検討が始まったところなので、「処分をする方法の検討も始まりました」という表現に留めているのです。

—— 正確に言うなら、その通りですね。

—— 「そのまま」は要らないのでは？

(篠田) 確かに、「ウランとプルトニウムを取り出すことなく」というのが「そのまま」ですから、「そのまま」は要らないかな。

(木村 浩) いや、Q19の選択肢に「現在、使用済み燃料をそのまま処分する方法の検討も始まっている」があるので、「そのまま」を取ると、ややこしくなります。選択肢の文章を短くするために「そのまま」という言葉を入れたのです。

元々は、「直接処分」と書いていたのです。でも、そう書くとよく分からないということで、「ウランとプルトニウムを取り出すことなく、～そのまま」としたのです。

—— 私は、1行目に少し言葉を入れたほうが良いのではないかと思います。「この使用済み燃料からウランとプルトニウムを取り出して」ではなくて、「この使用済み燃料を再処理して、ウランとプルトニウムを取り出して」と、プロセスを入れたほうが分かりやす

いのではないかと。

—— 一般の人は、どちらにせよあまり分からないと思うのですけれども。

(木村 浩) 元々は、「再処理とはこういうことです」という説明文があつて、「再処理によって～」という文章にしていました。でも、それはあまりに長すぎるし、今回は再処理については聞いていないので、再処理という言葉を使わないようにしたのです。

(土田) では、Q19、20 を見てもらった上で、もう一度考えてもらいましょうか。

Q19 が、知識の確認です。「上の文章のうち、あなたは以下の部分を聞いたことがありますか。聞いたことがある部分をすべて選んで、番号に○をつけてください」ということで、上の文章を切り出しています。

1. 取り出したウランとプルトニウムは、原子力発電の燃料としてリサイクルすることができる。
2. 日本では、高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋める方法を選択した。
3. 地層処分はまだ実施されていない。

—— 選択肢 3 は、「日本では」と書かなくていいのですか？ アメリカは、もう WIPP という地層処分場がありますから。

(土田) そうですね。上の文章にも「日本では」を入れましょう。スペースはありますから。

(木村 浩) 「日本では」が 2 回になって気持ち悪いですがけれども、入れておいたほうが無難でしょうね。

(土田) では、「日本では」を入れることにします。

4. 現在、使用済み燃料をそのまま処分する方法の検討も始まっている。
5. 高レベル放射性廃棄物と、福島を除染によって発生した廃棄物とは別物である。
6. どの部分も聞いたことがない。

という形で、知識のレベルを自己申告してもらおうと。

—— 先ほどの「福島を除染によって発生した廃棄物」のところを確認しました。環境省が使っている文章を読み上げますと、「福島県で発生した除染で取り除いた土や、放射性物質に汚染された廃棄物を、最終処分するまでの間、安全に集中的に管理・保管するための

中間貯蔵施設を云々」ということで、「汚染された廃棄物」という言い方をしていますから、「福島を除染によって発生した廃棄物」という表現で問題ないと思います。

(土田) 次に、Q20 ですが、納得できるかどうかを聞く質問です。

ア) 使用済み燃料から取り出したウランとプルトニウムを、燃料としてリサイクルするべきだ。

イ) 高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋めることに賛成だ。

ウ) ウランとプルトニウムを取り出すことなく、使用済み燃料をそのまま処分するべきだ。

エ) 地層処分場は、電力の大量消費地である都会に作るべきだ。

オ) 地層処分場での過酷な事故が起きないかと心配だ。

カ) 処分場を作ることなしに、原子力発電を続けていくことはいけない。

という質問にしてあります。

—— オ) は、「苛酷な」という言葉は要りますか？

(土田) 爆発が起きるのではないかということを使う人が結構いるので。

—— それなら、「苛酷な」ではなくて、核爆発とか、臨界とか、爆発事故とか、明確な表現のほうがいいような気がします。「地層処分場で、福島事故で起きたような事故が起きないか心配だ」。そのほうがいいかもしれない。

(篠田) 最初はそうだったのですが、それでも、「福島事故」を「苛酷な」に改めたのです。

(土田) あと、原子力学会がやっている調査ですから、本当にそうなんだと信じ込ませるような学習効果があっても困るなど。それで、ぼやっと「過酷な」にしました。

—— それは分かります。起きると思っている人は多いと思うので、あまりリアリティを持って書くと逆効果というのは確かにそうですね。

(篠田) あと、事故を限定したくないのです。

—— 「大きな事故」はどうですか？

—— 「放射能が撒き散らされるような事故」とか。

—— 井戸水に浸水することだったり、広範囲の土壤汚染だったり、人によってイメージすることが違うと思います。だから、私は、アンケートのわずかな文量で表現するとすれば、「過酷」でいいのではないかと思いますけど。

—— 「苛酷な事故」と言いますか？

—— 「過酷事故」というのは、専門用語なのです。

—— 福島以来、新聞で、自分たちの日常に入ってきた感じはありますが。そういう意味で、私も「過酷」という言葉には抵抗があります。

(土田) 「大きな」にしますか。

(木村^浩) 「大きな」でいいですか？ 福島の事故が起こる前にやった調査でも、似たような項目がありましたよね。どういう項目でしたっけ？

(篠田) ちょっと待って下さい。(過去の調査票を調べる)

「原子力発電施設から放射性物質が敷地外に漏れて、一般の人びとが死亡するような事故」という文言があります。

(木村^浩) それはやめたほうがいいですね。

(土田) 子供でも分かる表現は「大きな事故」ですね。

—— Q20 のカ) は単に「処分場」と書いてありますが、エ) とオ) は「地層処分場」になっているので、一致させるべきだと思います。

あと、「いくことはいけない」という言い回しが気持ち悪いのですけど……。

—— でも、これは地層処分かどうか分からないものも含まれているのでは？

—— ああ、なるほど。

—— 後者に関しては、「続けてはいけない」がいいと思います。

—— あと、前後の話なのですけれども、Q16 では「地層処分場」ではなく、「最終処分地」という言い方をしているのですが……。

(篠田) Q16 は、ずっと前から継続している項目なのです。このときには、直接処分は想定していなかったのですよ。アンケートの中では、選択肢を限定したくないのです。それで苦労したのですよ。

(土田) カ)はどうしますか？ 地層処分以外の処分場も含めて、処分場を作ることなら、「地層」は入れない。処分場は地層処分以外はないということならば、「地層処分」と入れたほうが、確かに前後の関係からしたらいい。

(木村_浩) 先ほどの「そのまま処分する」の話につながるのですけれども、「使用済み燃料をそのまま“地層”処分する方法の検討が始まった」は正しいですか？

—— 委員会では、ほぼそういうイメージで議論されています。

(木村_浩) だけど、明確に言及していないですよ。委員会の目論見として、別の法律を作って、別のやり方でやる、みたいなオプションも持っているから、地層処分とあえて言っていないのかな、と私は勘ぐっているところがあるのですけど。

—— なぜ地層処分が最適なのかの説明はきちんと丁寧にやる必要がある、ということは議論されていますけれども、地層処分以外のオプションを検討するという可能性は、限りなくゼロに近いと。関係者は、社会学者の人も含めて、皆そう思っています。

(木村_浩) 要は、使用済み燃料の直接処分のことも「地層処分」と書いていいのか、ということ。それが含まれないのであれば、「処分場」にしておかないといけない。

エ)、オ)は、「地層処分場」のことを聞いているのです。

—— 直接処分をやっているアメリカもスウェーデンもフィンランドも、皆地層処分と言っていますから、国際的には地層処分に分類されると思います。ただ、日本は、そういうオプションを検討すると言っているだけで、なにか青写真があるわけではないから、木村先生が言われる通り、日本で地層処分というと、リサイクルの廃棄物のことを限定的に指すと。

(木村_浩) 今は限定的に指しているのです。

(土田) ひとつ逃げ道ですけれども、「最終処分場」にしては駄目ですか？

—— そちらのほうが概念として広いから、そのほうがいいかもしれません。

(木村 浩) では、そうでしょうか。カ)は、「最終処分場を作ることなしに、原子力発電を続けてはいけない」にします。

—— そうしたら、エ)も「地層処分場」ではなくて「最終処分場」のほうがいいのでは？

(土田) エ)は、自分たちの下に埋めるということ意識してほしいのです。

(篠田) カ)で「最終」という言葉を使うという話でしたが、10ページの説明文には「最終」という言葉がないのですよ。

—— 上の文章に「最終」を入れればいいのでは？

(土田) 入れましょうか。ええと、2段落目に、「日本では、高レベル放射性廃棄物の最終処分方法として」と入れましょうか。

—— あるいは、2行目を「残りを「高レベル放射性廃棄物」として最終処分します」。

(土田) 両方入れましょうか。

(木村 浩) 「最終処分」という言葉は学術的に正しいですか？ 聞いたことがありませんけど……。

—— でも、「最終処分」という言葉自体は、「最終」もよく分かるし、「処分」もよく分かるから、イメージは持ちやすいかなと思いますけど。

—— 「地層処分はまだ実施されていません」の理由として書くのは、危ういですか？ これまで実施されなかった理由として、最終処分場が決定できなかった、という。

(木村 浩) うーん。だったら、「日本では、地層処分をする最終処分場はまだ決まっています」にしますか？

—— 今、Wikipedia や、インターネットの記事を検索してみました、「最終処分」という言葉は使われています。

「最終処分には海洋投棄と土壌還元があるが、2007年度より海洋投棄は原則禁止となっ

た」とか。これは Wikipedia。日経新聞は、「経産省 最終処分の主体見直し」。

—— 最終処分場とは言わない？

—— 最終処分場も使われています。

—— アメリカの事例ですが、ネバダのものは最終処分場ではない、というのがネバダの言い分なのです。リトリーブブルで、取り出して再処理できると言っています。あれは中間貯蔵なのですよ。

(木村_浩) では、(エ)と(オ)の「地層処分場」も、単なる「処分場」にしますか？

—— でも、都会に作るとしたら、下というイメージしかないですね。

(土田) やはり(エ)と(オ)は「地層処分場」で聞きたい。

—— ぼやっとした表現でいいのだとすれば、リトリーブブルのことなどはあまり考えずに、「最終処分場」と言えばいいのではないですか。リトリーブブルの概念も入っていると。

(土田) では、(エ)と(オ)も「最終処分場」にしますか？

—— 「都会に作るべきだ」というのは、都会の地下深くにというイメージがあります。

(土田) そうですよ。そうすると、やはり「地層処分場」なのだけど。

—— そこまでやってしまうと、上に「地層処分することに決めました」という文章が存在する意味が薄くなってしまいます。

—— 2000年の国会で最終処分法を決めていて、その最終処分法には、地層処分のことが明確に書いてありますから、決めたということには間違いなくて。

(土田) あまり直接処分とか、そういうことにこだわらないでいきますか？

(木村_浩) そういうことも全部丸めて、「処分場」にすればいいのではないですか。

(篠田) カ)はこのままでよろしいかと。

(土田) では、何も変えないということにします。

—— エ) とオ) の「地層」は残すのですか？

(土田) 残します。もうこのままということです。

—— 上の文章に「最終」を入れる、入れないというのはどうしますか？

(土田) それもそのままにします。

—— もし専門家から聞かれたら、リトリーバブルのこともありますから、最終という文言は入れませんでしたと言えればいいですね。

(木村^浩) はい。まだ日本はリトリーバブルをやるかどうかの決定はしていないので、その検討は始まったので、「最終」とはちょっと言えないと。

ただ、前のページはずっと前から続いている質問項目なので、あえて変えないでやっていますと。

(土田) 迷うなあ。上の文章に「最終」を入れておいたほうが、一般の人はイメージは持ちやすいかもしれない。

(木村^浩) 私は「最終」は特に入れる必要はないと思いますけど。

(篠田) このままでいいと思います。

(土田) では、このままでいきましょう。

11 ページ目は、フェイス項目と言われるところです。

Q21 は性別。

Q22 は年齢。20 歳から 10 歳刻みで聞いています。

Q23 は学歴。文系理系の別を一応聞きましょうと。

Q24 は職業。

例年これでやっていますので、よろしいでしょうか？

—— Q24 ですが、学生や無職がありますから、「現在、どちらにお勤めですか」ではなくて、「どれに該当しますか」のほうがいいと思います。

それから、細かく言うと、「5. 専業主婦」ですけれども、その後にカッコして主夫を入れないといけないですね。

(土田) はい。分かりました。

—— カッコではなくて、中黒でもいいかもしれない。

(土田) ああ、中黒が良いですね。「専業主婦・専業主夫」にしたほうがいいですか？ 「専業主婦・主夫」がいいですか？

—— 「専業主婦・主夫」でいいと思います。

(木村_浩) 質問文に「現在」を入れたほうがいいですか？

(土田) 入れておいたほうがいいと思います。というのは、退職した人が、過去そうだったと答える場合もありうるのです。

(木村_浩) では、上に合わせます。「次のどれにあたりますか」。

(土田) はい。それがいいと思います。
よろしいでしょうか？

—— こういうときに「主夫」を入れるのは、今は当たり前なのですか？

—— はい。当然です。

(土田) それでは、念のため、最初から通して、何かお気づきの点があれば、今、ご指摘ください。

確認しますか？

(木村_浩) いや、あまり時間がないので。今から 10 分休憩にしますので、その間にトイレ休憩、および、何か思いつくことがあれば指摘してもらおう、という形にしたいと思います。

(休憩)

(土田) では、再開いたします。次は、原子力学会員向けの調査票の内容を確定したいと思います。資料 4-3 をご覧下さい。首都圏のものとはほとんど同じです。違う点だけ説明します。

まず、7 ページ目の一番下をご覧ください。ハ) という項目があります。これが、学会員のみへの質問です。あれ? 「学会員のみ質問」というカッコ書きは要らないですね?

(木村^浩) 要らないですか? あえて入れましょうという話だった気がしますが。

(篠田) 過去に学会員のみ場合は、カッコ書きを入れています。

(土田) では、カッコ書きを入れましょう。

読み上げます。ハ) (学会員のみ質問) 私は、福島を除染基準について、追加被ばく線量を 1mSv/yr から 20mSv/yr に変更するべきだと考える。つまり、世間の基準が過度に厳しすぎる、ということです。

—— これは、どういう意味ですか? ICRP の勧告を変えろということですか?

(木村^浩) 「福島を除染基準について」です。

—— 「除染基準」という言葉はあるのかな……。 「除染目標」は 1 ミリなのですよ。基準って何だろうと思って。

(土田) ああ、「目標」か。

—— 単純に「厳しすぎる」と聞かないで、数字を聞いていますが、どういう意図があるのですか?

(篠田) 一般向けならそうするのですがけれども、学会員のみ質問だから、逆に数字を聞きたいと思っているぐらいなのですよ。

—— ただ、20 ミリに関して聞いているから、例えば、「19 ミリ以下でないといけない」「21 ミリ以上でも大丈夫」で分かれてしまうことも考えられますよね。

(土田) これは篠田さんが作った項目でしたっけ?

(篠田) 私が強引に入れてもらいましたけれども、どうしましょうか。やめましょうか?

(土田) やめますか。では、ハ)は削除します。

次に、9 ページ目をご覧ください。これは昨年度の Q17 とまったく同じ質問になります。首都圏向けと違うところは、「一般市民はどう思っていると思うか」という形になっているところですか。

同じように、10 ページ目の Q19 ですが、地層処分の知識を聞くわけですがけれども、学会員に対して「あなたは知っているか」と聞いたら、皆知っていると思うので、「過半数の一般市民が丸をつけると思うものはどれだと思いますか」という形で聞いています。ですから、学会員の Q19 は、市民の知識レベルを専門家はどのように見ているか、というような問いになります。

他の部分は首都圏住民用と同じ内容です。よろしいですか。

では、次に資料 4-4、4-5 をご覧ください。お願いの文章です。基本的に昨年度と同じです。ただ、回数や日付等を変えてあります。赤字のところが変わっているところですか。

大きく変わっているところは、見え消しになっているところで、福島事故の時節柄というのはもう言わなくていいだろうということで、ここを消すという判断です。4-5 も同じです。ですから、ここを消すことにご了承いただけるかどうかだと思います。よろしいですか。

では、これでアンケートについての議論は終わりました。

(木村 浩) では、続いて、資料 4-6、4-7、4-8、4-9 について、検討を進めていきたいと思えます。今年度も、社会調査と同時にフォーラムの応募をすることになります。それに關する資料も、本日確定する必要があります。

4-6 の「フォーラムへのご協力のお願ひ」は、応募の文言になります。変更点としては、ホームページがちゃんと開設されていますので、それが分かるように書いたということ。それから、今回はフォーラムの直後にシンポジウムをやりませんので、シンポジウムについての記載は省きました。あとは大きく変更したところはないと思えます。

それと、今回は、資料 4-7、「「フォーラム」とは？」を 4-6 の中に挟みたいと思っています。4-6 だけではフォーラムがどういう感じで行なわれるのかが分からないので、それをフォローするような形で、1 枚作っています。

4-6、4-7 は、一応フォーラム研究会でディスカッションして決めたものになります。今から少し時間を取りますので、目を通していただいて、ここは変えたほうがいいのかというような点があれば、指摘していただきたいと思えます。4-6 と 4-7 を合わせて、10 分程時間を取りたいと思えます。それではお願いします。

(各自資料に目を通す)

(木村 浩) よろしいでしょうか。では、4-6 と 4-7 について、何かありましたらお願いします。

—— 4-6 の 2 ページ目について、2 点あります。

1 つ目が、「本研究およびフォーラム開催の目的」の 3 行目、「原子カムラと呼ばれてしまう」とありますが、これは原子力肯定に偏っていると読まれてもおかしくないので、「呼ばれている」ぐらいでいいと思います。

あと、その下の段落の 2 行目に「一般の人たち」とありますが、ここは「一般の方」にするのでは？

(木村 浩) ここは「一般の人たち」です。

—— 最初のページに、「原子カムラ」という言葉は、マスメディアやインターネットなどで～レットルをはるために使われています」とあります。外側からこういうふうに使われている、という書き方がメインになっているのですけれども、確か、内と外の両方の凝集力があって、こういう概念ができあがった、みたいなことを重要な見解として出していたように思います。そういう双方向性を感じさせるような表現がどこにも見当たらないのがもったいないなど。

(木村 浩) それは「たとえば」の中に含めています。それを言うにはスペースがあまりに足りないし、1 ページ目に盛り込みすぎるとそもそも読んでもらえなくなってしまうのでやめようということで、いろいろ検討した結果、ここに落ち着いたということです。

—— 前回の参加者の方で、「原子カムラ」を「原子・カムラ」と読んだという方がいらっしやいました。力とムラの間になんかのスペースを入れたりすれば、そういう間違いはなくなるかな、と思いました。

それから、4-6 では「一般の人たち」、4-7 では「市民」になっているのは、使い分けをする意味があるのかどうかということです。

(木村 浩) 2 つ目から言うと、4-7 は、あらゆる問題に横展開できるものを目指したフォーラムの説明なので、一般論として「専門家」と「市民」と表現しています。なので、「原子力」という言葉は使っていないのです。

1 つ目の、半角スペースを入れるというのは、ちょっと気持ち悪いなと思って入れていないのですけど……。

(土田) でも、入れたほうが間違いはないかもしれない。

(木村_浩) ただ、間違えて読んでくると、それがひとつの話題にもなるので。

—— 単語の中に半角スペースを入れるというのは、あまり普通ではないと思います。先頭に「エネルギーと原子力に関するアンケート」と書いてあって、「原子力」が単体で出てきていますし。それを言うなら、「原子力学会」だって、「原子・力学会」と読む人もいますよね。ですから、これはそのままでもいいと思いますけど。

(木村_浩) まあ、お子様向けだったらルビを入れればいいのですが。

—— 最初だけルビを入れるとか。

—— それはよくありますよ。

(木村_浩) でも、それも馬鹿にされていると思われなかな、と思って。ネタにもなるし、そのままいきたいと思います。

—— 3 ページ目の「フォーラム開催に関する費用」に、25 年度、26 年度の費用を使っていると書かれています。これは 2 年度書かないといけないのですか？

(木村_浩) 社会調査をするのは平成 25 年度、フォーラムを実施するのは平成 26 年度だからです。社会調査もフォーラムに関わっているんで、こういう書き方になります。昨年度もこういう書き方でした。

(土田) 私からもよろしいですか。2 ページ目に第 1 回から第 5 回までの実施内容が書いてありますよね。前回のフォーラムは、かなり内容が変わりましたよね。ですから、「予定」ではなくて、「例」という形にしてはどうかなと思います。

あと、これは口を出すことではないのですけれども、代表者の連絡先に携帯電話の番号まで書きますか？

(木村_浩) 書いたら信頼度が上がると言われてるので、あえて書いています。そんなにいたずら電話も来ていませんし。去年も書いているし。

(土田) あと、4-6 全体についてですが、少し上から目線の書き方になっているのでは、と思います。例えば、3 ページ目に「フォーラムに参加するためには」とありますが、いか

にも、「参加させてやる」というような感じがします。「参加していただくためには」とか、もう少し視線を下げてもいいのではないかと思います。

(木村^浩) 「参加していただくためには」は、日本語としておかしいですね。

(土田) まあ、そうなのですが。もう少し工夫のしようがあるな、という感じがします。

1 ページ目の一番下の段落も、「ぜひお願いします」みたいな書き方にしてもいいのではないかという気もするのですが。「ご協力いただきたいと考えております」は、丁寧ではあるのですけれども、もう少し積極的に呼び込むというか。

(木村^浩) いや、その次にそう書いてあるのですけれども。「なにとぞ、皆様のお力添えをお願い申し上げます」。

具体的に、どう変えればいいですか？

(土田) 例えば、一番最初に、「お力添えをお願いします」みたいな文章を書いて、「それが仕組みを作り上げることとなります」みたいな書き方にするとか。「皆様にはこの取り組みにぜひご協力ください。そのことが、原子カムラを越えるための仕組みを作りあげることとなります」みたいな形にする。つまり、一番言いたいことを最初に言うてしまう。

3 ページ目のところであれば、「フォーラムにご参加いただける方は、次のようにお願いします」とか。

—— 3 ページ目については、「フォーラム参加申し込みについて」とか、そういうそっけない言葉では駄目ですか？

(土田) そっけない言葉でもいいと思います。

—— 「参加要領」とか。

(土田) 「参加の手続き」とか。

—— 4-7 の資料で、「写真はフォーラムの様子イメージ図」とありますが、これは実際のフォーラムの写真は載せない、参加者のことを配慮している、ということですよね？ そのことも明記したほうがいいと思います。

(土田) 確かに、「参加者の写真を公開することはありません」という文章を書いておいたほうが丁寧だと思います。

—— 1 ページ目の最後のところ、「ご関心がございましたら」というのは、いかにもよそよそしいので、「ご関心いただけましたら」のほうが、関心を持ってほしいという意思が表れるかなと思います。

(木村 浩) 「ご関心いただく」という日本語はあるのですか？

(土田) 集めなきゃいけないのだから、「ご関心がございましたら」なんて言わないで、「ぜひ、この中をお読みください」みたいな形のほうがいいと思います。

—— そのほうがいいですね。

—— ご協力の期間は、フォーラム全 5 回分だけを言えばいいのですか？ インタビューがあるんですよね？ 協力期間はいつからいつまで、というのを明示してあげたほうがいいのではないですか？

(木村 浩) でも、インタビューは個別調整なので。8 月いっぱいまでかかったりするんで、それを書くのは厳しいですね。

—— それで書かなかったのですか？

(木村 浩) いえ、書いてありますけれども。「詳細な日程はフォーラム終了後に別途調整いたします」と。

とりあえず 5 回来てもらえばいいのです。インタビューはその後個別に調整がつくので、そんなに厳しくないです。フォーラム 5 回は、こちらの決め打ちなので、日程を空けてもらわないといけないので、書きますが。

(土田) 私が参加者だったら、1 ページ目に、5 月 31 日から 7 月 26 日までの 5 回参加する、というようなことが書いてあったほうが、具体的に想像しやすいですね。

(木村 浩) すみませんが、今から大きな変更をするのは無理です。スペースの問題もありますし、今日中に内容を確定しないといけないので。

今指摘があったところも、具体的にどう変えたらいいのか、イメージできていないのですけれども。

(土田) まず、1 ページ目の一番下の行は、「ぜひ、この冊子の中をお読みください」と

いう形に変えるということですね。

(木村 浩) 「この冊子」でいいですか? 「この」は要らないですか?

—— 「ぜひ、次ページをご覧ください」でいいのではないですか?

(土田) 「中をお読みください」でいいかもしれませんね。

(木村 浩) では、「ぜひ、この中を」でいいですか。

(土田) そして、2 ページ目は、「呼ばれてしまう」を「呼ばれている」に変える。

それから、フォーラムの実施内容のところは、「実施内容例」として挙げるというやり方もあると思います。

3 ページ目の下ですけれども、「参加申し込みの手続き」という形にしたらどうですか?

(木村 浩) 「フォーラム」は入れなくていいですか?

(土田) 「フォーラム」は入れたほうがいいと思います。

あるいは方法という言い方もありますね。「申し込み方法」。

(木村 浩) 「フォーラム参加の申し込み方法」ですか?

(土田) それが一番いいと思います。

あと、4・7 のほうは、「実際の参加者の皆さんの写真が公開されることはありません」みたいなことが書いてあったほうがいいと思います。

—— 4・7 に、「結論を出すことではない」というのをどこかに入れたほうがいいでしょうか? 当日来て分かるのと、事前に分かっているのとでは、どちらがいいでしょうか?

(土田) 「人となりを理解する仕組みです」の後に、「何か結論を得るための話し合いではありません」とか、「結論や合意を得るための話し合いではありません」という文言を入れますか?

—— 要らないと思います。

—— 言い訳に聞こえるような気がします。

—— その文言があったほうが参加しやすいという印象が持たれるなら、あったほうがいいけれども、特に変化がないなら、要らない。あったほうが来やすいですか？

—— 前回の参加者は、その点を誤解されていた方もいたと思ったので……。その文があったほうが参加しやすいかどうかといわれると、あまり自信がないですね。

—— 私は、あってもいいような気がします。つまり、ひとつひとつ結論を出すということではなくて、意見交換というか。そういうことを言いたいわけでしょう。

—— でも、それは「人となりを理解し合う仕組みです」で十分では。

—— そうなのですけれども、「仕組みなので、何かを結論することではありません」とか、一言付け加えてあげると分かりやすいかなと思います。「人となりを理解し合う仕組み」というだけで、一般の人たちが、コミュニケーションの特徴が分かるかなと思ったりしたのですけれども。

(木村^浩) あとスペースの問題です。その文を入れることで、何かを削るのです。削るものとそれを比べて、どちらが大切か。もしくは、空いているスペースに入れてもいいのですが、あまり紙面が黒くなるのもよくない。

—— 「参加者がお互いを理解しようと心がける」のところに、「グループワークを中心として市民と専門家が対等に話せる雰囲気作りをする、コミュニケーションのルールに則った話し合いをする」と書いてあるから、大丈夫だと思いますけど。

—— 入れるとしたら、「理解し合う仕組みです」の後の3分の2行くらいのスペース。そこに収まるなら。まあ、確かに重複は重複なのだけど、念押しで書いたほうがよければ。

—— 「結論を求めるものではありません」というのは、否定の文章なのですよね。そういう文が入ると、ネガティブな印象が出てしまう気がします。

(木村^浩) そうなのですよ。だから否定語は入れたくない。でも、オープンエンドと言ってもたぶん分からないだろうし。

—— 自分の思いで皆の合意を得たいと思って張り切ってくる人もいるでしょうから。

(木村 浩) いると思います。そうではないと言ってしまうと、がっかりする人もいます。

—— 集まってからの説明でいいのではないのでしょうか。

—— 確かに、後ろ向きの誤解の懸念もありますから。「俺が説得してやろう」と思っている人に、「結論を出さない」と言うと、「最初から防御線を張っているな」と誤解されるかもしれない。

(木村 浩) 「写真はフォーラムの様子イメージ（運営側の事前準備の様子）です。実際の参加者の写真は公開いたしません」でいいですか？

(土田) そうですね。

(木村 浩) あまり時間がないので、現実的のところだけで恐縮ですけども、ではそういうことで 4-6、4-7 は修正させていただきます。

最後に、4-8、4-9 です。こちらはフォーラム参加申込書です。首都圏住民は 4-8、原子力学会員は 4-9 です。

まず 4-8 を見てもらえればと思いますけれども、裏面の下 2 個の質問は、今回はなくてもいいだろうということになりました。4-9 のほうも削ってあります。

それから、4-9 の Q3（経歴）を削っていますが、フォーラム研究会の中でも、ここを削る必要があるのかという話が出てきました。Q3（経歴）を削って、Q6（経済発展）も削れば、片面で収まりますね、みたいな話もありました。

(土田) Q3（経歴）はあったほうが良いと思います。前は、参加者選定には使いませんでした。けれども、万一たくさん応募が来たときにはここも基準として使う必要があると思います。

それから、例えば「行政機関の人が 1 人もいませんでしたね」というようなことは確認しておく必要があると思います。だから、一応聞いておいたほうが良いと思います。

なので、1 ページに収めるというのはちょっと難しいですね。

(木村 浩) 分かりました。

あとは、4-2（本調査票）の Q7（有用－無用）を入れてはどうか。Q5（関心）は、どうせ関心がある人が申し込むだろうからいいとして、Q6（利用）、Q7（有用－無用）、Q8（安心－不安）、Q9（経済発展）は入れてもいいのではないかという話がありましたが、どうですか？

(土田) おっしゃる通りで、関心のある人が集まっています。ただ、データとして、一般市民の分布から参加者の分布がずれています、ということを使うのに一番いいのが「関心」なのですね。だから「関心」は聞いておいたほうがいい。

(木村_浩) この申込書は、裏面を書き忘れていても審査できるように、ということで、大事な質問を表面に置こう、と設計したと思います。今は「利用」を表面に入れていますが、けれども、「有用－無用」、もしくは「関心」を持ってきますか？

(土田) 「利用」と「安心－不安」を入れて、あとは本調査票の4ページの設定問を入れるだけ入れるという形でいいのではないのでしょうか。

(木村_浩) では、表には「利用」を入れて、その後は、「有用－無用」、「安心－不安」、「経済発展」「関心」の順番でいいですね？

(土田) そうですね。

—— 逆に、なぜ去年は「有用－無用」を切ったのですか？

(木村_浩) Q7(省エネ)、Q8(電気料金)を入れたからです。

—— Q7(省エネ)、Q8(電気料金)を削ると、本調査票の4ページの5つが全部入りま
すね。

(木村_浩) はい。なので、それを全部入れるスタイルにします。
ということで、大丈夫でしょうか？

(土田) スペースの問題があるのであれば、4-9(原子力学会員用)は、「安心－不安」は聞かなくてもいいと思います。専門家にそれを聞いても意味がないですから。

(木村_浩) ただ、前回は、「どちらかといえば不安である」が2名来ましたが、

(土田) なるほど。専門家でも不安に思っている人が来ることもあるのですね。なら、あったほうがいい。

—— 専門家でも、発電と距離のある人は不安に思っているかもしれないから。

(木村^浩) では、そういう形で聞いていきたいと思います。

あとは Q3 (職業) を修正ですね。(主夫を追加)

他はよろしいですか？

—— フォーラムの日程は、ここに書かれているもので確定ですね？

(木村^浩) 確定です。

では、調査はこういう形で進めていきたいと思います。

念のために言っておきますけれども、フォーラムの応募は、前回と同じ方法を取ります。首都圏住民は、社会調査の回答者数が 500 名になるように、お願いをしていく。回答してくれた方に、「こういう取り組みはどうですか？」という形で、フォーラム関連の封筒をお渡しする。原子力学会の人には、調査票を送ると同時にフォーラムの案内状も送るという形になります。そして、フォーラム参加申込書は、1 月いっぱい投函してもらって、輿論科学協会では開封せずに、私に届くという形になります。開封は、土田先生でしたっけ？

(土田) 今年はそうでしたが、来年度は、私は 4 月ごろバタバタしそうなので……。

(木村^浩) うーん。本当は私が開封しないほうがいいのですが……。

(土田) うーん。でも、そこは目をつむりましょう。宛先は木村先生になっているし。

(木村^浩) では、私のほうで開けてしまいます。そういう形にしたいと思います。

2 月中旬のフォーラム研究会で参加者の選定をする。1 月の終わりごろから、何通くらい申込書がくるかが分かってくるので、数によっては追加の募集を個別に頑張ってください。今回もそういうスタイルでやらざるを得ないと考えていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

ということで、これで議題 1 がようやく終わりました。

2. フォーラムのシステム化について

(木村^浩) 議題 2 は、時間が残り 5 分しかありませんので、紹介という形に留めたいと思います。資料 2-10 をご覧ください。

前々回の全体会で、「この取り組みは、専門家がいなくても成立する点に新規性があるのではないか」というご指摘がありました。

その後、PO との面談の中でも、それはひとつの着眼点ですねというコメントをいただきました。

また、12月上旬に、原子力と社会の研究ワークショップがあつて、このイニシアティブの代表者の人たちが発表をして、意見交換をしました。そのとき、平川先生もいらっしやいまして、システム化を進めることは非常に意義がある、非常に興味がある、というお話をさせていただきました。また、単に専門家がいなくていいというだけでなく、運営陣も不在でできるようなものまで目指してほしい、というコメントをいただきましたので、我々がどのように振舞うかということも含めて、システムを固めていきたいと思っています。

ということで、お互いに尊重しあうプロセスを望んでいる人たちに対してシステムを提供するということを考えて、整理を始めています。4-10 は、まだ検討中の内容ですが、少しご紹介したいと思います。

ビジネスに役に立つシステムを作るプロセスを参考にして、フォーラムのビジネス要件、システム要件を考えてみました。裏面は、さらにそれを噛み砕いた要件になっています。いろいろな要件が必要だということが、私たちの中でも整理できてきたな、と思っているところです。

まだこれはディスカッションの途中で、本当は時間があればここで皆さんのご意見も伺いたかったのですが、時間がありませんので、今日は紹介に留めたいと思います。

これらの要件は、このシステムがちゃんと機能しているかどうかの指標にもなります。今、フォーラム参加者に対するインタビューの分析も徐々に進んでいますが、このシステム要件が整理されたら、改めて、システムを評価する指標として今回のインタビューを分析してみると、今回のフォーラムがどうであったかということがより明確に評価できるのではないかと考えています。次回の会合では、その辺のお話もしたいと思っています。

次回の全体会合は3月に実施しますが、その前に、1月21日の13時からフォーラム研究会を開催し、このシステム要件について、もう少し深掘りをしたいと考えています。フォーラム研究会は、基本的にはフォーラムを運営しているメンバーで構成されていますが、フォーラム研究会のメンバーではないけれども、興味があるという方は、そちらに参加していただければと思いますので、よろしくお願ひします。

—— 関心があるのですが、どこでやられるのですか？

(木村 浩) 人数が少ない場合はPONPOの事務所でやろうと思っているのですが、人数が多くなったら、別の場所を確保したいと思っています。そうしたら、早めに案内を出して、皆さんの出席を取りたいと思います。ご興味があるときはそちらに出席のお知らせをいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

3. その他

(木村 浩) 時間になりましたので、そろそろ終わりにしていきたいと思います。最後に、その他ですが、全体会合としましては、今年度は次回の第5回が最終回となります。3月に行ないたいと思います。日程はメールで調整したいと思いますので、ご協力お願いします。

内容は、今年度のイニシアティブの成果取りまとめが中心になります。社会調査の結果も出てきているし、おそらくフォーラムのシステム化も進んでいるはずですので、そういったお話もできれば、と思っています。また、次回のフォーラムは、システム化をした結果として、いろいろなものがちゃんと機能するかどうかのチェックもしていきたいと考えています。次回は、そういったことのたたき台も考えていきたいと思っています。

ということで、以上で予定していた議題は全て終了ですが、何かありますか？

—— 次のフォーラムも、元気ネット5人がサブファシリテーター役ということでいいのですか？

(木村 浩) はい。またお願いできればと思います。

—— 今年やっていない人で、やりたいという人がいるのですが、どうしますか？ 人を育てるという意味では、入れたほうがいいかなと思ったのですが。それで、今年やった私はサブファシリテーターとしては入らないで、遠くから見ているとか。

(木村 浩) それはいいかもしれないですね。そうしたら、元気ネットさんのほうで内部で調整していただいて、あとで教えてください。

他はよろしいでしょうか？

では、第4回はこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

以上